

事業計画書

① 団体名	一般社団法人コノヒトカン
② 事業名	ロス食材をきっかけに備中地域を好きになろう！
③ テーマ区分	番号：6
④ 補助回数	<p>*同一事業における補助回数（年数）について、いずれかにチェック</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目</p>
⑤ 現状及び課題	<p>我が国では貧困に苦しむ家庭もある中、まだ食べられる食品が1日1人あたり茶碗1杯分も捨てられている現状があり、これは深刻な社会問題となっています。</p> <p>「コノヒトカン」では、食品ロス削減に向けた取り組みを進めてきましたが、家庭での取り組みや私たち一人ひとりの意識改革も重要です。これまで出前授業や講演、小学校での探究活動を通じて食品ロスに関する啓発活動を行ってきました。しかし、多くの人々にわかりやすく伝えるためには、さらなる小学校教員用指導教材や人材の整備が必要だと感じています。</p> <p>近年、小学校でも探究活動が注目されていますが、子どもたちが主体的に考え行動する機会はまだ十分ではありません。また、教員の方々も食品ロスや防災といったテーマをどのように教えるべきか悩んでおり、授業で「答え」を出さないといけないうプレッシャーから、多様な意見を尊重する自由な学びの場が十分に実現できていないのが現状です。</p> <p>まずは教員が効果的に探究活動を進められるよう支援する仕組みや、子どもたちが地域への関心を深め、持続可能な社会について学べる身近な教材の提供が今後の課題です。</p>
⑥ 事業目的	<p>「コノヒトカン」は、食品ロスや貧困問題の解決に向けた活動を通じて、多くの人々にこれらの課題への関心を広げ、地域での新たな取り組みの「種」となることを目指しています。</p> <p>未来を担う子供たちに「考え、探求し、行動する力」を育むことを重視し、小学校の探究活動の時間（年間約70時間）に活用できるよう、「コノヒトカン」の活動を題材にした小学校教員用指導教材の制作を視野に入れてきました。</p> <p>「コノヒトカン」の強みは、県内外に高校生や大学生とのつながりがあることです。高校生が自ら考えた教材を取り入れることで子どもたちにとって身近なロールモデルとして希望や目標が芽生え、学びの探究を高める効果が期待されます。また実際に高校生自身も模擬授業を体験することで、教員への道を志すきっかけになるような有意義な学びの機会が得られるでしょう。</p> <p>小学校教員用指導教材は、出前講座や学校の授業で活用しやすい内容にし、備中地域の小学校を中心に普及を図っていきたいと考えます。</p>
⑦ 事業内容	<p>※備中県民局補助対象事業について、位置づけ（狙い）、概要、受益者（対象者）、実施地域、実施方法などを記載すること</p> <p>【狙い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生…身近な地域課題に興味を持って取り組み、自分たちの将来や備中地域について考える力を身につけます。 ・高校生…探究の授業で取り組みができ、より深く理解することができます。 ・教員…食品ロスの解決を目指すコノヒトカンの専門的なアドバイスを取り入れた教員用指導教材を使用することで、探究活動の授業が行いやすくなり、子どもたちと一緒に楽しんで授業ができます。 <p>【概要】</p> <p>高校生が主体的に食品ロスや防災の内容について考え、コノヒトカンの専門知見を活用して小学校教員用指導教材を製作します。この教材は、児童が「考え、探求し、行動する力」を楽しく育むと同時に探究授業の教員負担を</p>

軽減することを目的としています。またその教材を使って高校でも模擬授業を行い、高校生たちの学びや備中地域への関心を深めます。

【受益者】

備中地域の小学校の教員と児童、おかやま山陽高等学校など県内外の高校生

【実施地域】

備中地域の小学校 6 校など

【実施方法】

- ・ コノヒトカンオリジナル小学校教員用指導教材とオリジナルすごろくを県内外の高校生の意見を取り入れながら製作。
- ・ 高校生は、各高校で模擬授業を行う。（立候補した各高校で開催）
- ・ 各小学校に教員用指導教材の提供
- ・ 各小学校に講師を派遣、授業のサポートをする(1 クラスにつき 1 時間)
- ・ チラシ作成 小学校への教材内容の紹介
- ・ コノヒトカン教材を活用した探究学習の実践紹介動画作成
コノヒトカンの教材を活用した探究学習の実践例(鴨方東小学校で 2024 年に実施した授業)を動画で紹介し、小学校での具体的な活用イメージを伝えます。これにより、教材の効果を可視化し、より多くの学校に導入してもらうことを目的としています。

○小学校教員用指導教材について

第 3 回コノヒトカン 1000 缶プロジェクトコンテストで発表した 21 校の高校に今回の教材作りについての募集をかけ、立候補した 4 高校に作成に取り組んでもらいます。

6 カリキュラムセット製作

※合計 9 時間の学習で小学校の教員が指導できる教材

①フードロスについて (2 時間)

[全高等学校 4 校担当]

・ 食の大切さ・貧困問題 [岡山高等学校担当]

②コノヒトカンのストーリーについて(2 時間)

[おかやま山陽高等学校担当]

食品ロスと貧困問題を解決するために世界一あったかい缶詰を作ってきたストーリー。コノヒトカンがこれまでどのような社会活動にとりくんできたか詳しく説明。

③防災について(1 時間)

[小松大谷高等学校(石川県)担当]

※小松大谷高等学校は、能登半島地震でコノヒトカンを使って炊き出し活動を実施した経験があり、その内容をまとめていきます。

④ 備中地域の食材について調べる(1 時間)

[翠松高等学校担当]

備中地域の食材を支える人々や地域の特産物などクイズ形式で楽しく学べる教材を製作。

※①～④までのデジタル資料 6 時間分は、單元ごとにパワーポイント 12 枚～15 枚で作成し、USB にて保管。

⑤すごろくゲーム(2 時間)

A1 サイズで作成(各クラス 30 人と想定し、5～7 人のグループで学んでもらうよう 1 クラス 6 セット用意)

テーマは「未来へつなごう!!今私たちにできること」肯定感アップストーリー。フードロスの問題を楽しく学びながら自分自身の行動につなげていくゲームです。1 コマ進むごとにクイズやグループワークなどで自分事として考える力を育んでいきます。

⑥ふりかえりの時間、アンケート記入(1 時間)

ふりかえりのアンケート形式のワークシートを岡山大学 教育推進機構 共通教育部門 吉川幸准教授に依頼し、作成します。対象は教員と生徒とし Google のフォーマットでアンケート形式のワークシートを製作、集計し、それを元に教授に専門的に評価してもらいます。結果は、教員や学校へもフィードバックします。

その後、データを管理し、今後の教材作りにつなげていきます。

【子どもたちの理解が深まる教材作成の工夫等】

座学のみでなく、すごろくゲームでの楽しいグループワークも取り入れ、高校生が考えたアイデアを教育の専門家のアドバイスにより分かりやすい内容とするとともに、マスコットキャラクターを活用して子どもたちが親しみやすいものとし、子どもたちの理解が深まるような教材、カリキュラムとして作成します。また、アンケート等の結果も反映しながら、より良いものへと進化させていきます。

【高校生への指導】

教材を作成する高校 4 校に対して、単元や授業ごとの目標を設定した教材作成に取り組んでもらい、各校と綿密に連携を図っていきます。元高校教諭や大学教授と毎週 Zoom での打ち合わせを実施し、また直接学校を訪問してのアドバイスもできるようにします。事前に一つの高校と教材作りを進め、PowerPoint 形式で仕上げた教材を提示し、他校の教材作りの参考になるよう見本として活用できるようにしていきます。

教材作成においては、目標の設定が重要であるとのアドバイスを行い、高校生と共に目標を意識した内容作りを進めていきます。各校とのやりとりを重ね、内容を精査しながら作成していく予定です。

【高校生の主体的な学び】

高校生が主体的に考え、深い学びにつながるよう、教材作成の過程においては、なぜそのテーマを選んだのか、どのような課題に注目したのかなど、問いかけを通じて深掘りを行っていきます。また高校生同士のディス

	<p>カッションも取り入れる予定であり、さらに学びを深める仕掛けを取り入れていきます。</p> <p>【教材の有効性の検証】</p> <p>岡山大学の教授の協力のもと、教材の有効性を客観的に検証するためのアンケート調査を実施予定です。Google フォームを活用し、10 段階評価などを用いた統計的な分析を行います。</p> <p>【県民局事業の明記について】</p> <p>教員が使用する指導教材等の紙媒体資料をはじめ教材の配布にあたっては、「令和 7 年度備中地域みらいづくり支援事業」で作成した旨を明記し、チラシや小学校への案内等においても明記する予定です。井原市・笠岡市などでは教育委員会を通じた周知を進めており、今後も同様の形で広く周知を図ります。</p> <p>【教員向けのワークショップについて】</p> <p>教員からの要望があれば、授業の事前説明や質問対応等にも柔軟に対応できる体制を整えています。現在も教材に関する問い合わせには随時対応しており、今後必要に応じた取組を検討していきます。</p> <p>*天災地変、感染症等で事業が実施できない場合の対応</p> <p>Zoom授業などで対応する。</p>												
⑧事業の条件及びアピールポイント	<p>先進性、先駆性、独創性</p> <p>「コノヒトカン」という具体的で身近な題材からフードロスや食の大切さを学ぶ点と、学生たちと社会課題解決にむけて取り組んできたことで、学生たちと多くの接点を持っている点です。</p> <p>ロス食材を使い、地域の大人たちが協力して作った缶詰を教材にすることで、食品ロスや地域連携の重要性を実感できる学習が実現できます。また高校生が主体となって製作した教材を活用することで、子どもたちにとって親しみやすく、理解しやすい内容となります。この工夫により、現場での探究活動がより具体的で効果的に進められる仕組みが実現します。</p> <p>備中地域への波及効果</p> <p>この教材の導入により、子供たちが食品ロスの問題を理解し、家庭での実践や地域社会に関心を持つことにつながり、防災や地域社会にも積極的に関わりたいという気持ちになっていくことが期待されます。</p> <p>その他、団体の持つ専門性やノウハウ等</p> <p>食品ロスに関する知識、3年間学生と協力して社会問題に取り組んできた経験、そして出前授業を通じて培った教育現場に適した教材開発のノウハウが強みです。また、現場の声を直接感じてきた講師の経験を活かし、社会問題を具体的な例を通じて子どもたちに分かりやすく伝える力があります。これにより、実践的で理解しやすい小学校教員用指導教材を提供できます。</p>												
⑨今年度の事業による直接の結果（アウトプット）及びその評価指標・評価方法	<table><tr><th></th><th>内容</th><th>参加予定人数</th></tr><tr><td>1学期</td><td><ul style="list-style-type: none">・コノヒトカンオリジナル教材製作・教材を使った高校での模擬授業</td><td><ul style="list-style-type: none">・県内外の高校4校・おかやま山陽高等学校 他3校</td></tr><tr><td>2学期</td><td><ul style="list-style-type: none">・コノヒトカンオリジナルの小学校教員指導教材を使った授業</td><td>30人×(2～3クラス)×3校 ※1クラス人数、クラス数は目安</td></tr><tr><td>3学期</td><td><ul style="list-style-type: none">・コノヒトカンオリジナルの小学校教員指導教材を使った授業</td><td>30人×(2～3クラス)×3校 ※1クラス人数、クラス数は目安</td></tr></table>		内容	参加予定人数	1学期	<ul style="list-style-type: none">・コノヒトカンオリジナル教材製作・教材を使った高校での模擬授業	<ul style="list-style-type: none">・県内外の高校4校・おかやま山陽高等学校 他3校	2学期	<ul style="list-style-type: none">・コノヒトカンオリジナルの小学校教員指導教材を使った授業	30人×(2～3クラス)×3校 ※1クラス人数、クラス数は目安	3学期	<ul style="list-style-type: none">・コノヒトカンオリジナルの小学校教員指導教材を使った授業	30人×(2～3クラス)×3校 ※1クラス人数、クラス数は目安
	内容	参加予定人数											
1学期	<ul style="list-style-type: none">・コノヒトカンオリジナル教材製作・教材を使った高校での模擬授業	<ul style="list-style-type: none">・県内外の高校4校・おかやま山陽高等学校 他3校											
2学期	<ul style="list-style-type: none">・コノヒトカンオリジナルの小学校教員指導教材を使った授業	30人×(2～3クラス)×3校 ※1クラス人数、クラス数は目安											
3学期	<ul style="list-style-type: none">・コノヒトカンオリジナルの小学校教員指導教材を使った授業	30人×(2～3クラス)×3校 ※1クラス人数、クラス数は目安											
※事業が複数の場合は、事業ごとに分けて記載													

	評価指標	評価方法	目標
	開催回数の達成度	計画に対する割合	100%
	参加人数の達成度	定員に対する割合	100%
<p>⑩今年度に期待される成果・効果 (短期アウトカム) 及びその評価指標・評価方法</p> <p>※事業が複数の場合は、事業ごとに分けて記</p>	事業参加者		
	<p>① フードロス身近なものとして考えられ、食の大切さに気付く。</p> <p>② 缶詰が災害時にどのように活用され、役割をはたしているか考えることができ、防災意識も向上する。</p> <p>③ 地域の食材に興味を持ってもらい、地域のことが好きになる。</p>		
	評価指標	評価方法	目標
	参加者による意識変容	アンケートによるフィードバック	はいと答えた人80%
	事業実施団体		
	<p>① 地域における認知度と信頼性の向上 学習教材の制作・普及を通じて、コノヒトカンが地域課題解決を目指す団体として、地元住民や教育現場からの信頼を得ることが期待されます。</p> <p>② 新しい協働のきっかけの創出 高校生や大学生、教育機関との連携を強化し、食品ロス問題解決に向けた講演などのアクションを共創する実績を作ります。</p>		
	評価指標	評価方法	目標
	① 教材利用校数や参加児童数、高校生や教育機関の数	学校からのフィードバックの収集信頼度を測定	良いと答えた学校80%
	② 講演や出前授業の数	新たな提案件数を記録	5件
	備中地域		
<p>⑪将来的に期待される成果・効果 (中・長期アウトカム)</p> <p>※事業が複数の場合は、事業ごとに分けて記載</p>	事業参加者		
	<p>子どもたちは身近な問題に気づき、自分で考え、行動する力を身につけることが期待されます。食品ロスや防災、地域の食材について学ぶことで、「自分たちにもできることがある」と感じ、自分の住む地域や社会をより大切に思う気持ちが育まれるでしょう。また課題に対してもさまざまな考え方があることを学ぶことで、将来に向けて柔軟で創造的な発想ができる力が養われます。</p>		
	事業実施団体		
	<p>「コノヒトカン」を使った小学校教員指導用教材の成功事例を通じて、地域社会の課題に取り組むリーダー的存在としての地位を確立します。教材を通じた収益や協働の広がりにより、団体としての財政基盤と活動継続性を強化します。</p> <p>他地域の学校や企業とも連携を進め、コノヒトカンの活動を全国規模に広げる機会を創出します。</p>		
	備中地域		
	<p>授業を受けた子どもたちや模擬授業を経験した高校生が、食品ロスだけではなく、地元の資源や課題に関心を持ち、地域への愛着や誇りを深めることが期待されます。子どもたちが地元の食材や食品ロス、防災につ</p>		
	評価指標	評価方法	目標
	教材案内資料	問い合わせ、配布実績	10件

	<p>いて学ぶことで、地域資源を活かしながら持続可能な未来を考えるきっかけとなり、地域社会の一員としての意識が生まれます。</p> <p>さらに子ども達が学んだことを家族や地域の人々に伝えることで、その影響が地域全体に広がり、地域の課題に目を向ける機会が生まれます。こうした取り組みを通じて将来的には、地域の課題解決に積極的に関わる若者が増え、地域全体が活気づき、より豊かな社会の形成につながる可能性があります。</p>
⑫事業継続化に向けた取組及び事業展開の予定（資金確保の見通し等）	<p>コノヒトカンの教材を通じた取り組みの一環として、1年目は高校生が主体となり、コノヒトカンが専門的な知見で監修した小学校教員用指導教材を制作し、それを活用した授業を実施します。この授業を通じて、食品ロスなど地域の課題に目を向けるきっかけを子どもたちに提供します。</p> <p>2年目は、1年目の授業で得たアンケート結果や動画をもとに教材をブラッシュアップし、教育現場での活用を一層推進します。</p> <p>さらに、教員向けの講座や高校生たちと教材について意見を交換するディスカッションの場を設けることも視野に入れています。備中地域の困りごとや食材ロスなど探究学習で学んだことを、子どもたちがポスターにまとめて発表する場を作り、地域全体で学びを深める機会を提供します。</p> <p>最終的には、この取り組みが市町村の教育委員会のモデル事業として位置づけられることを目指しています。</p>

<記入上の注意事項>

- 1 各項目は、簡潔かつ明瞭に記入してください。
- 2 「④補助回数」欄の2回目は、前年度に採択された事業を今年度も継続して実施する場合に選択できます。
- 3 「⑤現状及び課題」欄は、事業実施の要因となる地域課題や問題点、社会的背景等について記入してください。なお、根拠となる統計データや当事者の声などがあれば、それも示してください。
- 4 「⑥事業目的」欄は、事業を通じて実現したいこと、目指す将来的な姿（社会、経済、生活、環境等）について、「⑤現状及び課題」、受益者（対象者）等を踏まえて記入してください。
- 5 「⑦事業内容」欄は、課題解決や「⑥事業目的」における位置づけ（狙い）とともに、概要、受益者（対象者）、実施地域、実施方法などを事業項目ごとに具体的に記入してください。また、天災地変、感染症等で事業が実施できない場合の対応（代替案の検討、事業縮小、事業中止等）についても併せて記入してください。なお、事業が複数の場合は、それぞれの事業ごとに内容を記入してください。
- 6 「⑧事業の条件及びアピールポイント」欄は、事業条件としている広域性又は先進性、先駆性、団体の持つ専門性やノウハウ等のアピールポイントについて具体的に記入してください。なお、先進性、先駆性は、他地域での先進例や成功例等もあれば、それも参考として記入してください。
- 7 「⑨今年度の事業による直接の結果（アウトプット）及びその評価指標・評価方法」欄は今年度の活動計画及びその評価指標・評価方法を記入してください。「⑩今年度に期待される成果・効果（短期アウトカム）及びその評価指標・評価方法」欄は事業実施により得られる今年度の利益や変化及びその評価指標・評価方法について記入し、「⑪将来的に期待される成果・効果（中・長期アウトカム）」欄は、事業を継続して行うことで、将来的に得られる利益や変化について記入してください。なお、事業が複数の場合は、⑨、⑩、⑪は事業ごとに分けて記入してください。
- 8 「⑫事業継続化に向けた取組及び事業展開の予定（資金確保の見通し等）」欄は、「⑥事業目的」や「⑪将来的に期待される成果・効果（中・長期アウトカム）」を踏まえ、翌年度以降に実施する予定の事業内容、組織体制、財源確保の手法、事業継続の工夫等について記入してください。
- 9 記入箇所が不足する場合は、必要に応じて行挿入等を行ってください。